

ダラスのワーキング女子へエールを！

～DJCWのマンズリーメッセージ～

社会進出との バランス

皆さんの職場では、女性幹部や女性マネージャーがいても珍しくない環境ですか？もちろん業界や職種にもありますが、全体的に女性の管理職率が低いのが現状のようです。女性の社会進出はまだまだ日が浅いですし、道のりは長いのもしれません。その一方で、女性社員を積極的にサポートしようとダイバーシティを推奨する会社も増えてきていますし、働く女性を応援する会なども設立されてきています。本記事を担当しているDJCW（ダラス・ジャパニーズ・キャリア・ウーマン）も、まさにそんな会の一つです。

私が勤務するオフィスデザイン設計会社では、男女比率を見ると女性社員がやや多めです。そしてほとんどの女性社員はアドミンや雑用などではなく、建築家やその卵として働いています。年齢層も20から60代と幅広く、さまざまなバックグラウンドを持った優秀な女性建築家がたくさんいます。特に50～60代の方々は、当時まだ「女性建築家」という役職が非常に珍しかった時代に一から全てを切り開いてきたパイオニアウーマン達です。今のポジションに着くまでには相当の苦労や努力があったはず。そんな彼女達の並々ならぬ努力のおかげで、今の女性建築家の礎ができたといってもよいでしょう。私もそんな先輩達を誇りに思います。ですが、そんな先人のスーパーウーマン建築家たちと会話をしていると、ときどき価値観の違いに「？」と思うことも。私のベテラン女性上司の例です。彼女は若かりし頃に、まだ生後数か月のお子さんを抱えてヨーロッパへ数か月出張した強者です。そこまでする必要あったの？と正直思ってしまうのですが、おそらく当時は断ったら「これだから女はダメなんだ」と言われてしまう環境だったのだでしょう。男女同等に働きたければ出張に行つて当然、といった雰囲気だった

たのかもしれない。先日その上司との雑談時に「子育てもあるし、ハッピーアワーや夜の会食などは行きづらいですよ」と話したら、「あら私が子育てをしていた頃は、そんな時はナニーを雇っていたわ」と一蹴。いやー金銭的に無理です、と心の中で返事しましたが…。どちらがよい悪いではないけれど、その時何ができるか、何が重要なのかを考えながら、自分の解を選んでいきたいですよ。

接待の会食って、なぜか夜が多い。じゃあ子育て中のママさんは諦めるしかないの？いえいえそんなことはありません。確かに全ての会に出席するのは難しいですが、自分でルールを決めて賢く日程調整すれば十分対応可能です。ある女性社員のAさんは、夜の会食に連続で出席すると子供と接する時間がどうしても少なくなってしまうため、代わりに子供の学校と一緒にランチを食べるというルールを設けていました。そんなやり方もあるんだ！と目からウロコでした。私は今子育て真っ最中なため、以前のように業界の集まりや夜の接待会食などに毎週参加することは難しいですが、今はそれを逆手にとつて、出席すべきイベントの優先順序をつけることで、メリハリを持つて出席できるようになりました。

私の女友達の一人で、全米トップ5に入るような超有名一流建築会社で部長になった人がいます。頑張ってるな！と思つていたら、実は超激務で家族と過ごす時間もほとんどなく、ストレスレベルもMAX。常に仕事漬けでお子さんと過ごす時間もなかったためか、お子さんが学校で問題をおこすようになったそうです。いくらすばらしい肩書を持つていても、子供の精神や情緒によくない影響が出てしまつては元も子もありません。結局彼女はそこを退社し、もつと時間にゆとりのある会社へと転職したそうです。尤もこういった話はあまり珍しくもなく、私の前職でも似たようなケースがありました。当時、私の女性上司は仕事を減らしてもらえよう会社と交渉していました。詳しく話を聞いてみると、彼女のお子さんをデイケアに迎えに行く人がいつも違う家族や友人だったため、お子さんの情緒が不安定になり、デイケアで何かと問題をおこすようになったり、減らしたそうです。その上司は仕事を減

らしてなるべく定時にデイケアに迎えにいけるよう時間調整をしたかったようなのですが、交渉がうまくいかなかったのか、結局転職されました。

昨今の建築業界では、現環境が今の自分のライフスタイルとあわないとすぐ別の建築会社へと転職というのでも珍しくありませんが、以前はそう簡単でもなかったようです。そもそも建築デザイン業とは、時間の融通が利かない過酷な男性業界。そのため出産したら建築分野は諦め、もつと時間に融通が利くコンサルなどのセールスへと異動する女性が多かったようです。セールスはコミッションペーイスなため、働かないと手取り額に直結するというのが難点。ですが自分で働く時間選べて家族との時間も持ちやすいため、女性に人気だったようです。でもそれは、有能な女性建築家が業界を離れてしまうことでもあります。もつたないですよ。一方で、そんな過酷な男性社会の建築業界で生き残った女性建築家達はタフです。時折そんな彼女達に「私も頑張ったんだから、あなたもできるわよね」と言われることも。気持ちはわかるのですが、正直つらいときもあるのです。子供の情緒や家族の時間を犠牲にしてまで仕事ファーストで頑張るべき？デイケアだけでも高額なのに、更にベビーシッターやナニーも雇うべき？もちろん仕事は大事だし、全力投球で頑張りたいと思う。でも、かつて良しとされていたアプローチのみを正とするのではなく、いかに自分らしく生き生きと働けるかも大事だと思います。最近日本では働き方改革などが推奨されているようですが、アメリカでもそういった理解とトレンドが進んでいるかな？

私の娘は今年で4歳になり、以前ほど手はかからなくなりました。これからも彼女の成長を見届けていきたいし、家族の時間も大切にしていきたい。けれど、一方で社内でもつと責任のある役職を担当していきたいなという思いもあります。育児、家族、仕事。どうバランスを取っていくのがベストなのか、日々模索中です。

プロフィール

DJCW (Dallas Japanese Career Women)
ダラス在住の働く日本人女性2人が2018年に立ち上げた会。「ダラスにて頑張っている日本人のキャリア女性を応援し、ネットワークの場を作る」という趣旨で、毎月イベントなどを通してネットワークの場を作っている。

メールアドレス: djcwomen@gmail.com
ウェブサイト: www.djcw.org